

## 次期計画におけるビジョンと基本方針（案）

### 1 次期計画のビジョン

#### （1）ビジョンの背景

次期計画のビジョンは、これからの 15 年間に於ける本市のごみ処理、資源循環や施設整備に関する長期・総合的な到達点と位置づけることとする。

国は「第 3 次循環型社会形成推進基本計画」等において、国際的な循環型社会の構築、及び「循環型社会」と「低炭素社会」の連携強化による「持続可能な社会」の構築を目指すこととしており、本市においても、持続可能な社会を実現していくことを、最上位の目標として位置づける必要がある。

また、国は近年、自然災害等による膨大な災害廃棄物の処理についても迅速かつ適切に対応できるよう、廃棄物処理システムの強靱化について掲げていることから、本市においても非日常時を含めたごみの安定的かつ適正な処理を基本的事項として位置づける必要がある。

本市では、平成 19 年度から「焼却ごみ 1 / 3 削減」を目指し、町内自治会等を対象とした説明会等による周知啓発をはじめ、家庭ごみの収集体制の見直し、家庭ごみ手数料徴収制度の導入等様々な取り組みを実施し、市民・事業者の皆様、一人ひとりがごみ減量に取り組んでいただいた結果、削減目標を達成した。

今後は、2 清掃工場体制による安定的かつ継続的なごみ処理を図るため、一層のごみ減量・資源化の推進が求められる。

## (2) これまでの計画の視点と効果

### ア 平成19年3月策定

視点	効果
① 徹底したごみの減量、再資源化による次世代への環境及び資源の継承	① ごみの焼却に伴う温室効果ガスの大幅な排出削減
② 積極的な環境負荷低減と経済性・効率性を考慮した取り組み	② 最終処分場の延命化
③ 市民・事業者・市のパートナーシップ及びそれぞれの果たすべき役割と責任	③ 清掃工場の建設費用と維持管理費用の節減

### イ 平成24年3月策定

視点	効果
① さらなる排出抑制に向けた動機づけや高齢社会等の新たな社会状況を考慮した住民サービスの向上を目指します	① 新たな資源化と熱回収システムの全体効率の向上による天然資源の消費抑制
② より高度な資源化を目指し、2清掃工場体制の実現と安定・継続的なごみ処理の実現を目指します	② 温室効果ガス排出量の削減と天然資源の消費抑制に伴う、地球環境保全・持続可能社会への貢献
③ 社会的な要求が高まる低炭素・資源消費抑制に向けた資源循環システムの構築を目指します	

### (3) ビジョンの新たな視点

次期計画では、これまでの計画におけるビジョンの視点を踏襲しつつ、今後もさらなるごみの減量・資源化の推進等に取り組んでいくために、以下の視点を新たに加える。

#### 【新たな視点】

##### 1 排出抑制

- ・ 市民・事業者一人ひとりにごみ減量意識がさらに浸透しごみを出さないスタイルが確立するよう、年齢層や事業所種別に見合ったきめ細やかな普及啓発を目指す。

##### 2 資源化・焼却ごみ削減

- ・ 実現可能性を考慮した資源化拡大を図り、循環型社会の構築を目指す。
- ・ 市民・地域・事業者・行政の連携を強化するとともに、地域におけるごみ減量・再資源化を推進する人材の育成を目指す。

##### 3 安全で安定的かつ継続した処理体制の構築

- ・ 長期的かつ総合的な視点で、焼却施設、リサイクル施設、最終処分場、汚水処理場の施設整備を目指す。
- ・ 民間施設を活用した処理体制の構築を目指す。
- ・ 新清掃工場において、熱回収・焼却残渣再資源化の拡大を図り、エネルギー利用の効率化や循環型社会の構築を目指す。
- ・ リサイクル施設の機能向上に向けた検討を行い、ごみ処理システム全体の効率化・適正化を目指す。
- ・ 最終処分場の延命化を図るとともに、安定的かつ効率的な次期最終処分場の整備を目指す。
- ・ 災害時に備えた強靱な処理システムの構築を目指す。

##### 4 その他

- ・ 次期計画に掲げる事業の費用を記載することで、費用対効果を意識づけるとともに、目標の表現方法等を見直し、市民・事業者にわかりやすい計画を目指す。

#### 【新たな効果】

- ・ ごみ減量意識の浸透による、ごみを出さない「千葉市」づくりの推進
- ・ 排出抑制や資源化拡大による、さらなる環境負荷の低減
- ・ 地域における人材の育成による、ごみ減量事業の効率化
- ・ 強靱な処理システムの構築による、突発的要因のリスク回避
- ・ 費用対効果を意識した実効性の高い計画による、ごみ処理費用の節減

#### (4) ビジョン案

ビジョンの背景や新たな視点を考慮すると、以下の3つがこれからの15年間で本市が目指すべき到達点として考えられる。

##### ① 目指すべき方向

低炭素社会と連携した循環型社会の構築による持続可能な社会への貢献

##### ② 次期計画の果たすべき役割

3用地2清掃工場での安全で安定的かつ継続した処理に向けた「焼却ごみ量の削減」と「長期・総合的な処理施設の配置及び整備」

##### ③ 次期計画の取り組み主体

市民・地域・事業者・行政の連携

本市の目指すべき到達点を踏まえ、スローガン案を以下のとおりとする。

#### 案 1

**参加型ごみスリム化計画**  
～明日に繋ぐため 今日すべきこと～

主題：減量化・資源化のためには、市民・事業者全員の力が必要である。「参加型」を頭につけることで、一人ひとりが本計画の主体であることをアピールしている。また、減量計画ではなくスリム化とすることで、身近な印象を与える。

副題：ごみは毎日排出されるものであるため、遠くの未来をイメージするよりも、明日をイメージする方が、市民・事業者にとって実現可能な印象を与えるため、あえて「未来」ではなく、「明日」という言葉を使用している。一人ひとりにできることを、今日から始めようという趣旨。

#### 案 2

**進化する 挑戦する ちばプラン**  
～未来へ繋げ チームちば～

主題：焼却ごみ量1/3削減が達成された今、現状に満足せず、さらなる減量である「未来」に「進化・挑戦する」千葉市を表現している。2清掃工場体制を実現した後も、その他の施設更新を見据えて、安定的な処理体制を確立していくことを目指していく市の意気込みでもある。

副題：「チームちば」という言葉は、千葉市が一つになってそれを達成していくのだということを意識させ、結束感を高めるような言葉としている。集団回収の維持やパトロールの実施など、地域のネットワークを生かして、一丸となって未来を作っていこうという趣旨。

### 案 3

次のステージへ ちばごみゼロプラン  
～千葉を変える ワンステップを あなたから～

主題：焼却ごみ量1／3削減を達成したことで、千葉市はさらなるごみ量の削減という「次のステージ」へ向かっており、さらにはその他の施設更新を見据えた処理体制も確立していく必要がある状況にあるが、次期計画によってその方向性を定めていくという趣旨。ごみゼロプランとしたのは、可能な限りごみを減らす（無くす）という趣旨。

副題：さらなるごみの減量を実現するのは、一人ひとりの一歩進んだ努力（ワンステップ）であり、一人ひとりが意識を変えていくことで、千葉市全体が変わっていくという趣旨。

### 案 4

リサイクル率No.1計画  
～ごみ分別はカッコイイ！～

主題：人口50万人以上の都市におけるリサイクル率が、平成22年度から4年連続で第1位となっていることを前面にアピールし、千葉市だけのオンリーワン・スローガンを掲げインパクトを与えるという趣旨。

副題：これまであまりごみ分別に取り組んでこなかった方にも、取り組んでもらえるような含みを持たせている。

### 案 5

ごみを出さないルーティン！ It's a ちばしスタイル  
～<sup>リ</sup>R・<sup>リ</sup>R・<sup>リ</sup>R <sup>ゴ</sup>GO！ オールちばし～

主題：市民一人ひとりにごみ減量意識が浸透し、ごみを出さないことが当たり前のこととして習慣づける（ルーティン）「ちばしスタイル」の確立を目指し、全国に発信していくという趣旨。

副題：さらなる3Rの推進へ、オール千葉市で全国をリードしていくという趣旨。「焼却ごみ量1／3削減」という大きな目標のホップ（前計画）・ステップ（現行計画）・ジャンプ（次期計画）として、さらに飛躍していくという意味も含めている。

## 参考

・前計画（平成19年3月策定）のスローガン

環境と資源、次世代のために今できること  
～挑戦！焼却ごみ1／3削減～

主題：徹底したごみの減量・再資源化により、環境負荷の低減、清掃工場の建て替えや維持管理費用の節減など、市民・事業者・市の三者が一体となって取り組み、次世代に豊かな生活環境を引き継いでいくという趣旨。

副題：「焼却ごみ1／3削減」は、焼却処理量を1／3、重量にして約10万トンを削減し、2清掃工場による処理体制の実現という大きな目標達成に向け挑戦するという趣旨。

・現行計画（平成24年3月策定）のスローガン

まだできる！ともに取組むごみ削減・一歩先へ  
～ごみ削減！何のため？誰のため？～

主題：市民一人ひとりから始まる未来を見据えたまちづくりを推進するため、持続可能な社会への貢献を目指し、さらなる資源化の拡充による焼却ごみの継続的な削減を進めるため、市民・地域・事業者・行政が、これからの10年間は、今よりも『一歩先へ』進んだ取組みを協働して実施していくという趣旨。

副題：「ごみ削減！何のため？誰のため？」は、当時、市が市民対話会などで用いていたフレーズ。市は、「脱・財政危機」を宣言し、「財政健全化プラン」に基づき、財政危機の克服に向けた取組みを強化していたことから、市民にコスト意識を持ってもらえるよう、問いかけるスタイルとした。

## 2 基本方針

ビジョンを達成するための基本方針は、現行計画の構造を踏襲しつつ、次期計画に必要な新たな視点を加え、「排出抑制」「資源化・焼却ごみ削減」「安全で安定的かつ継続した処理体制の構築」の3点から構成し、それぞれの基本方針に基づき具体事業を立案・実施していくこととする。

### (1) 基本方針1 (排出抑制)

#### ア 方向性

現行計画の排出抑制に係る基本方針1は、3Rのうち優先すべきリデュース・リユースをごみの排出者である市民・事業者へ、ごみの減量に対する理解と関心を深め、取り組みを促すような啓発事業を推進し、ごみを出さない社会づくりを目指すものである。

次期計画においても基本的な方向性としてはこれを踏襲しつつ、市民・事業者の一人ひとりにごみ減量意識が浸透するように、年齢層や事業所種別に見合ったきめ細やかな普及・啓発により、さらなるリデュース・リユースの推進を図り、ごみを出さないライフスタイル・ビジネススタイルの確立を目指していく。

#### イ 基本方針案

ごみを出さないライフスタイル・ビジネススタイルの確立を目指します。
-----------------------------------

(現行計画→市民・事業者・市の協働によるごみを出さない社会づくりを推進します。)

## (2) 基本方針2 (資源化・焼却ごみ削減)

### ア 方向性

現行計画の基本方針2は、プラスチック製容器包装、剪定枝、生ごみなどの新たな資源化対象の拡充を含む高度な資源化への挑戦により、焼却ごみ量の継続的な削減を目指すものである。

次期計画では、「3用地2清掃工場での安全で安定的かつ継続した処理に向けた焼却ごみ量の削減」を確実なものとするために、必要性や有効性重視の「高度な資源化」という視点から、費用対効果を考慮した「実効性のある資源化」という総合的な視点へシフトすることが必要である。

また、資源化の推進においては、地域コミュニティや事業者との連携が不可欠であることから、市民・地域・事業者・行政の連携を強化するとともに、地域におけるごみ減量・資源化を推進する人材の育成を目指していく。

### イ 基本方針案

<p>費用対効果を踏まえた実効性のある施策と、市民・地域・事業者との協働や地域活動への支援により、さらなる焼却ごみ量の削減を目指します。</p>
--

(現行計画→分別の徹底・推進・拡充による高度な資源化への挑戦により、焼却ごみの継続的な削減を目指します。)



### (3) 基本方針3 (安全で安定的かつ継続した処理体制の構築)

#### ア 方向性

現行計画の基本方針3は、低炭素・循環型社会に貢献するごみ処理システムに係るものであり、3Rを経てそれでも発生するごみを適正処理するための基幹的な事業を本方針に位置づけている。

次期計画においても基本的な方向性としてはこれを踏襲し、資源循環を含めた経済・効率性や安定・継続性に優れたごみ処理体制の構築を目指すこととするが、国による国土強靱化における災害廃棄物対策の考え方と整合を図り、強靱なシステムの構築を目指していく。

#### イ 基本方針案

<p>低炭素・資源循環へ貢献する、経済・効率性と 強靱で安定・継続性に優れたごみ処理システムの構築を目指します。</p>
--

(現行計画→低炭素・資源循環へ貢献する、経済・効率性と安定・継続性に優れたシステムの構築を目指します。)